陸軍省受領
貳第一六九二號

陸軍省 昭和 10.8.24 前午 大臣官房

憲庶第四六五號

憲兵隊配置及憲兵分隊管區中改正ニ關スル件上申

昭和十年八月廿參日　憲兵司令官　田代皖一郎

陸軍大臣林銑十郎殿

大正十四年陸軍省令第十六號憲兵隊配置及憲兵分隊管區中左記ノ通改正相成度上申ス

左記

東京憲兵隊上野憲兵分隊ノ項管轄分遣隊名稱ノ欄中「熊谷」ヲ「三尻」ニ改ム

理由

昭和十年七月二十九日陸密第五六〇號ヲ以テ昭和十年陸密第二〇五號「昭和十一年軍備改變要領細則」中改正セラレタルニ因ル

陸軍省 10.8.24 軍事課

第八 餘興

餘興掛ノ業務ハ例大祭ヲ通シ四月廿六日ヨリ五月一日ニ至ル六日間實施シ餘

保存期限	永久
決裁指定	済委任
決行指定	牛島

八

受領番號	陸普第一七六五號
件名	衆議院議員選擧法施行令第二十六條等ノ事由ニ關スル證明者ノ件
連帯課名	軍事課、兵務課、動員課、書記官
決行(決裁)後回覽課名	
起元廳(課)名	軍務局徴募課
政務次官 參與官 回付	決裁前 決裁後

主務局課 番號	受領	提出	受領	結了
軍事第一〇五〇號	昭和 年 月 日	昭和十年九月三日	昭和 年 月 日	昭和 年九月七日

大臣

政務次官　次官　主務局長

參與官　高級副官　主務課長

書記官　主務副官　官房御用掛主　主務課員

審案筆記者

決行後回覽(決裁)　連帯

局長　局長

課長　課長

武規項　八　登載

永久甲　校

省令案

陸軍省令第十二號

大正十五年陸軍省令第一號中左ノ通改正ス

昭和十年九月五日

陸軍大臣　林銑十郎

陸軍省令第十二

官報照合

「衆議院議員選擧法施行令第二十六條第四號」ノ下ニ「、府縣制施行令第十六條ノ二第一項第五號（北海道會法及北海道地方費法施行令第一條ノ規定

ニ依リ之ヲ準用スル場合ヲ含ム）又ハ市制町村制施行令第二十三條第一項第五號（同令第六十五條又ハ北海道一級町村制第一條ノ規定ニ依リ之ヲ準用スル場合及北海道二級町村制第二十八條ノ二ノ規定ニ依ル場合ヲ含ム）ヲ加フ

附　則

本令ハ各選擧毎ニ次ノ總選擧ヨリ之ヲ施行ス

理由

府県制施行令及市制町村制施行令ノ改正ニ伴ヒ改正スルノ必要アルニ由ル

能楽協會ノ五流ハ梅若ハ捜見ニ依リ四月廿七日ヨリ五月一日ニ至ル五日間正午ヨリ午後四時乃至五時ニ至ル間能楽堂ニ於テ奉納シ連日盛況ヲ極メタリ

是能楽堂ニ於ケル夜ノ實況

大正十五年陸軍省令第一號中改正新旧對照

陸軍省令第一號

衆議院議員選擧法施行令第二十六條第四號、府縣制施行令第十六條ノ二第一項第五號（北海道會法及北海道地方費法施行令第一條ノ規定ニ依リ之ヲ準用スル場合ヲ含ム）又ハ市制町村制施行令第二十二條第一項第五號（同令第六十五條若ハ北海道一級町村制第一條ノ規定ニ依リ之ヲ準用スル場合又ハ北海道二級町村制第二十八條ノ二ノ規定ニ依ル場合ヲ含ム）ニ掲グル事由ニ關スル證明ハ當該聯隊長又ハ獨立隊長（分屯スル歩兵大隊ノ長ヲ含ム）ニ於テ之ヲ爲スベシ

附　則

本令ハ各選挙毎ニ次ノ總選挙ヨリ之ヲ施行ス

第九二號

保存期限　　決裁指定　　決行指定　　牛島

戌規類聚登載

永年

受領番號	件名	大臣
陸軍省受領密受第一七五〇號	所澤陸軍飛行學校令中改正ノ件	山

起元廳(課)名：軍事課

決行(決裁)後回覧課名

政務次官　參與官　回付

決裁前後 連帶課名：兵、徴、防、動、補、主、監

主務局課		大臣官房	
番號	受領	提出	受領	結了
軍事保第六八號	昭和　年九月廿一日	昭和　年　月　日	昭和　年九月二日	昭和　年九月十四日

政務次官　次官　主務局長（代 橋本）　橋本

參與官　高級副官（牛島）　主務課長（橋本）

書記官　主務副官　官房御用掛主計　主務課員

審案筆記者

連帶　局長　課長

決行(決裁)後回覧　局長　課長

陸軍省 10.8.22 受156號 兵務課

10.8.29 第72號 動員課

軍令ハ別段ノ施行期日ヲ定メタルモノノ外ハ直ニ施行セラルルモノナリ
施行期日ニ注意セラレ度
（中澤）

日東、ポリドール、コロンビヤ、ビクター各蓄音器會社、放送局及新橋藝妓屋組合、柳橋藝妓屋組合、松竹奉納ノ各種演藝ヲ五日間ニ亘リ午後六時半ヨ

總長、總監ヘ照會案（陸普）

首題ノ件別紙軍令案ノ通改正致度異存ナクハ可仰 允裁照會ス

陸普第四八九〇號 昭和拾年九月貳日

右異存ナキ回答アリタル後

所澤陸軍飛行學校令中改定並施行ノ件

上奏案

所澤陸軍飛行學校令中別紙軍令案ノ通改定相成之カ施行ヲ命セラレ度理由書ヲ具シ謹テ奏ス

九月九日

リ午後九時半乃至午後十時ニ亘ル間實施シ連日多數ノ聽衆ヲ收容シ盛況ヲ

屋組合ノ聯盟藝妓屋組合ノ松竹奉納ノ各種演藝ヲ五日間ニ亘リ午後六時半ヨ

日東ノ [illegible] 擴聲器 [illegible] 放送局及新橋藝妓

軍令案

軍令陸第十六號

（別紙）

内閣總理大臣ヘ報告案

所澤陸軍飛行學校令中別紙ノ通改定セラレタルニ付報告ス

官報掲載

陸普第五一二〇號　昭和十年九月十二日

前例ニ依リ興行及露店ノ代表者ヲシテ全般ノ取締ニ任セシメ又憲兵及掛員巡

軍令案

朕所澤陸軍飛行學校令ヲ改定シ之ガ施行ヲ命ズ

御名御璽

昭和十年九月十一日

陸軍大臣 ~~林銑十郎~~ 川島義之

所沢飛行学校ニ於テハ前項ノ外飛行機操縦ニ従事スヘキ航空兵科幹部候補生タル生徒ニ必要ナル教育ヲ行フ

左ノ通改正ス

「外」ノ下ニ「操縦候補生及」ヲ加フ

前例ニ依リ興行及露店ノ代表者ヲシテ全般ノ取締ニ任セシメ又憲兵及掛員巡

軍令案

朕所澤陸軍飛行學校令ヲ改定シ之ガ施
行ヲ命ズ

御名御璽

昭和十年九月十一日

陸軍大臣 ~~林銑十郎~~ 川島義之

軍令陸第十六號

所澤陸軍飛行學校令中左ノ通改正ス

第一條第二項中「前項ノ外」ノ下ニ「操縱候
補生及」ヲ加フ

第三條中「生徒ハ」ノ下ニ「操縦候補生及」ヲ加フ

第三條 生徒ハ飛行機操縦ニ従事スヘ
キ航空兵科[illegible]候補生ヲ以テ之ニ
充ツ[illegible]ノ修業ニ応シ陸軍大臣
之ヲ定ム

[illegible]日ヨリ之ヲ施行ス

理由書

操縦候補生制度新設ニ伴ヒ改正ノ要アルニ由ル

第三條中「生徒ハ」ノ下ニ「操縦候補生及」ヲ加フ

附則

本令ハ昭和十年九月二日ヨリ之ヲ施行ス

理由書

操縦候補生制度新設ニ伴ヒ改正ノ要アルニ由ル

朕所澤陸軍飛行學校令ヲ改定シ之カ施行ヲ命ズ

御名　御璽

昭和十年九月十一日

陸軍大臣　林　銑十郎

軍令陸第十六號

所澤陸軍飛行學校令中左ノ通改正ス

第一條第二項中「前項ノ外」ノ下ニ「操縦候補生及」ヲ加フ

第三條中「生徒ハ」ノ下ニ「操縦候補生及」ヲ加フ

陸　軍

教庶第一七九五號

所澤陸軍飛行學校令中改正ノ件同答

昭和十年九月二日

教育總監渡邊錠太郎

陸軍大臣 林 銑十郎殿

九月二日附陸普第四八九〇號ヲ以テ照會ニ係ル首題ノ件當方異存無之

陸軍省 昭和 10.9.6. 前午 大臣官房

陸軍省 10.9.6 280 軍事課

陸軍

弐一七五〇

參謀本部

參密第二八八號第二

所澤陸軍飛行學校令中改正ノ件回答

昭和十年九月三日　參謀總長　載仁親王

陸軍大臣　林銑十郎殿

首題ノ件ニ關シ九月二日陸普第四八九〇號ヲ以テ照會ノ趣異存ナシ

陸軍省
昭和10.9.4
前午
大臣官房

陸軍

三

保存期限

決裁指定 (stamp)

決行指定 牛島

受領番號 陸軍省受領 貳第一八九五號

件名 衛戍病院分院ノ名稱及位置中改正ノ件

軍事課

起元

大臣 奏

政務次官

次官

參與官

書記官

主務局長 代

高級副官

主務課長

主務副官

主務課員

審案筆記者

主務局課 番號 軍事課第九〇號

受領 昭和 年 月 日

提出 昭和十年九月 日

受領 昭和 年九月十八日

大臣官房 結了 昭和 年九月廿五日

決行後回覽(決裁)

連帶 局長 長局

課長 長課

成規類聚登載

政務次官 參與官 回付

決裁 前 後

連帶課名 醫、衛、書、

陸軍省 10.9.16 決 軍事課

10.9.18 衛生課

陸達案

大正十四年陸達第十六號衛戍病院分院ノ名稱及位置中左ノ通改正ス

陸達第二十九號

官報照合

昭和十年九月　日

陸軍大臣　川島義之

立川衛戍病院所澤分院ノ行ヲ「所澤衛戍病院熊谷分院　熊谷陸軍飛行學校所在地」ニ、金澤衛戍病院山代分院ノ行中「山代村」ヲ「山代町」ニ、京都衛戍病院大津分院ノ行中「歩兵第九聯隊第三大隊所在地」ヲ「滋賀縣滋賀郡滋賀村」ニ改メ京都衛戍病院大津分院ノ次ニ「津衛戍病院明野分

院　明野陸軍飛行学校所在地」ヲ加フ

附　則

本達中所澤衛戍病院熊谷分院及津衛戍病院明野分院ニ関スル改正規定ハ昭和十一年一月廿一日ヨリ之ヲ施行ス

理　由

衛戍病院分院ノ新設及部隊ノ轉營並行政區劃ノ變更等ニ依リ改正ノ要アルニ由ル

保存期限 永久

決裁指定 次官委任

決行指定

受領番號 陸軍省 號

番號 一九七五

件名 各學校ヘ助手分遣規則中改正ノ件

政務次官 參與官 回付 決裁前後 連帯課名 軍事、主計、衛生、書記官

決行(決裁)後回覧課名

起元廳(課)名 兵務課

永久甲

陸軍省 10.9.30

大臣 委

主務局課				大臣官房	
番號	受領	提出	受領	結了	
甲第[illegible]	昭和 年 月 日	昭和十年九月三十日	昭和 年 九月三十日	昭和 年 十月三日	

政務次官 / 次官 / 主務局長

參與官 / 高級副官 / 主務課長

書記官 / 主務副官 / 官房御用掛主計 / 主務課員

審案筆記者

連帯 局長 / 課長

決行後回覧(決裁) 局長 / 課長

昭和十一年四月靖國神社臨時祭業務報告目次

第一、臨時祭委員以下任命

一

陸普

（別紙ノ通）

陸普第五四九九號　昭和十年九月卅日

昭和十年四月以降臨時調業務報告目次

第一　臨時調査委員以下任命

第二　臨時調査委員會

陸普第　　號（甲）

各學校喇叭手分遣規則中改正ノ件達

陸軍一般

各學校喇叭手分遣規則中左ノ通改正ス

昭和十年　月　日

陸軍大臣 川島義之

第一條中「所澤陸軍飛行學校」ヲ「熊谷陸軍飛行學校、陸軍航空技術學校」ニ改ム

第二條中「（第七師團ニ限ル）五月及十一月」ヲ削ル

昭和八年陸普第二二三二號附則ヲ削ル

別表各學校喇叭手分遣人員表ヲ左ノ如ク改ム

別表

各學校喇叭手分遣人員表

分遣スヘキ學校 ＼ 所屬師團	兵種
熊谷陸軍飛行學校	航空兵
陸軍航空技術學校	航空兵
陸軍士官學校	歩兵
	騎兵
	砲兵
陸軍幼年學校	歩兵
仙臺陸軍教導學校	歩兵
豐橋陸軍教導學校	歩兵
	騎兵
	砲兵
熊本陸軍教導學校	歩兵
陸軍工科學校	砲兵

近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
二										
			二							
	四	一	一	三	三	一	二	二	四	三
	一							一		
一	一		一	一			一			
一	一									
		四					三	三		
			四	二						二
	一		一							一
		一	一		一				一	
					二	四				
一	一									

第十一	第十二	第十四	第十六
			一
五		四	二
一	一		
		一	
			二
			一
	二		
	四		

附則

本達ニ依リ新ニ増加分遣スヘキ喇叭手ノ第一回分遣時期ハ左ノ區分ニ依ル

熊谷陸軍飛行學校　昭和十年十二月

陸軍航空技術學校

第三師團ノ航空兵　昭和十年十月

第十六師團ノ航空兵　　昭和十年十二月

陸軍士官學校

第六師團及第十六師團ノ歩兵
第七師團ノ砲兵
} 昭和十一年三月

前項ニ規定スルモノノ外本達ニ依リ從前ノ分遣人員ヲ變更スルコトヲ要スルモノニ付テハ昭和十年十二月（航空兵喇叭手ニ在リテハ昭和十年十月騎兵喇叭手ニ在リテハ昭和十一年十月）ニ於テ之ヲ行フ

別表ニ示スモノノ外第十六師團ヨリ航空兵喇叭手一名ヲ昭和十年十二月迄所澤陸軍飛行學校ニ分遣スルモノトス

第　三三

保存期限
決裁指定　大臣
決行指定

受領番號　陸軍省受領貳第一九五一號

政務次官
參與官　回付

決裁前後連帶課名　監、主、書、建

件名
陸軍経理部條例ニ依ル會計事務ノ監督、土地建造物ノ經營及人事教育等理ノ所管區分ノ件

起元廳（課）名　軍事課

決行（決裁）後回覧課名

大臣　委

主務局課			大臣官房	
番號	受領	提出	受領	結了
軍事課第二一二九號	昭和十年九月廿一日	昭和年月日	昭和年月廿三日	昭和十年十月四日

政務次官
次官
主務局長
參與官
高級副官
主務課長
書記官
主務副官
官房御用掛主計
主務課員

連帶　局長　課長
決行（決裁）後回覧　局長　課長

陸軍省 10.9.23 經理課
陸軍省 10.9.23 午後　時 主計課
陸軍省 10.9.21 監査課

（別表）

靖國神社臨時祭委員

陸達案

別紙ノ通

陸達第三十號

官報照合

金子

(陸軍)

[illegible]委員

改正後ノ分

陸軍經理部條例ニ依ル會計事務ノ監督、土地建造物ノ經營及人事教育掌理ノ所管區分（大正一三、一二、二〇 陸達四四）

改正加除 昭和一〇陸達

陸軍經理部條例第三條及第九條ノ二ニ依ル會計事務ノ監督、土地建造物ノ經營及人事教育掌理ノ所管區分左ノ通定ム

所管	會計事務ノ監督	土地建造物ノ經營	人事教育ノ掌理
近衛師團經理部	第一師管内ニ在ル陸軍部隊（第一師團經理部所管部隊、陸軍航空本部、陸軍航空技術研究所、陸軍航空廠、	第一師管内ニ在ル陸軍所屬ノ土地建造物（第一師團經理部所管ノモノヲ除ク）那須御	第一師管内ニ在ル陸軍部隊（第一師團經理部所管部隊ヲ除ク）

	第一師團經理部
軍馬補充部、陸軍兵器廠、陸軍造兵廠及千住製絨所ヲ除ク)	當該師團長ニ隷屬スル陸軍部隊及第一師管内ニ在ル陸軍部隊中參謀總長、教育總監ニ隷屬スル部隊
用ノ守衛部隊使用ノモノ及波崎演習場	同上部隊ニ使用ノモノ 第一師管内ニ在ル演習場、練兵場及各兵作業場ニシテ所管ヲ異ニスル團体共用ノモノ 富士裾野演習場 音羽陸軍埋葬地及習志野陸軍埋葬地
	當該師團長ニ隷屬スル陸軍部隊及第一師管内ニ在ル陸軍部隊中參謀總長、教育總監ニ隷屬スル部隊

附則

大正十三年陸達第四十四號ハ之ヲ廢止ス

陸軍屬　竹内秀太郎

附則

大正十三年陸達第四十四號陸軍經理部條例[第三條及第九條ニ]ニ依ル會計事務ノ監督、土地建造物ノ經營及人事教育掌理ノ所管區分ハ之ヲ廢止ス

同

大久保祐吉

陸軍

昭一〇、九、二六
軍事課

陸軍經理部條例ニ依ル會計事務ノ監督、土地建造物ノ經營及人事教育掌理ノ所管區分ニ關スル件ノ改正ニ關スル說明

一、改正理由

演習場ノ新設廢止、航空本部ノ改編等ニ件ヒ改正ノ要アルト從來所管區分明瞭ナラサリシモノヲ此ノ際明ナラシメムトスルニ由ル

二、改正箇所

一、近衞師團經理部ノ行會計事務ノ監督ノ欄中「陸軍航空部」トアルヲ「陸軍航空本部、陸軍航空技術研究所、陸軍航空廠」ニ改メ「所澤屯在部隊」ヲ削ル

（牧）

二、同土地建造物ノ經營ノ欄中「所澤屯在部隊使用ノモノ及前橋演習場」トアルヲ「那須御用邸守衞部隊使用ノモノ及波崎演習場」ニ改ム

三、同人事教育ノ掌理ノ欄中「所澤屯在部隊」ヲ削ル

四、第一師團經理部ノ行土地建造物ノ經營ノ欄中「富士裾野演習場」ノ次ニ「音羽陸軍埋葬地及習志野陸軍埋葬地」ヲ加フ

（小林又七印行）

第一臨時祭委員以下任命

三月廿八日陸軍ニ在リテハ歩兵大佐牛島滿以下十一名、海軍ニ在リテハ海軍

93-

第 [redacted] 號

保存期限 永久甲

決裁指定 次官

決行指定 牛島

受領番號 二〇九三號

件名 陸軍兵器廠出張所ノ名稱及位置中改正ノ件

起元廳(課)名 軍事課

政務次官 參與官 回付

決裁 前 後 連帶課名 銃 主

決行(決裁)後 回覽課名

大臣 委

政務次官

次官 古莊

參與官

局長 主務 今井

高級副官 牛島

主務課長 本橋

書記官 日高

主務副官

官房御用掛 主計

主務課員

審案 筆記者 中澤 金子

主務局課 番號 軍事満第三九號

受領 昭和 年 十月 日

提出 昭和 年 十月十一日

大臣官房 受領 昭和 年 十月十一日

結了 昭和 年 十月十八日

連帶 局長 課長

決行(決裁)後 回覽 局長 課長

陸軍省 10.10.9 第乙66號 銃砲課

陸軍省 10.10.9. 午後 時 主計課

陸達案

昭和三年陸達第二十八號中左ノ通改正ス

昭和十年十月十五日

陸軍大臣　川島義之

「朝鮮平安南道大同郡古平面」ヲ「朝鮮平壌府」ニ改ム

〔参照〕

昭和三年陸達第二十八號ハ陸軍兵器廠出張所ノ名稱及位置ノ件ナリ

陸達第三十二號

十月十七日

官報照合

保存期限

決裁指定 次官

決行指定 牛島

受領番號 陸軍省受領 武第 號

件名 歩兵隊ニ於ケル上等兵、各部隊ニ於ケル衛生部兵卒ノ人員、進級及勤務ニ關スル件中一部改正ノ件

政務次官 參與官 回付 決裁 前 後

連帯課名 ✕ 徴、動、補、主

成規類聚登載

起元廳(課)名 軍事課

主務局課 番號 軍事課第三二八號
受領 昭和 年 月 日
提出 昭和 十年 十月九日

大臣官房 受領 昭和 十年 十月 日
結了 昭和 十年 十月廿二日

大臣

政務次官

次官 古荘

主務局長 橋本

參與官

高級副官

主務課長 橋本

書記官

主務副官 牛島

官房御用掛主計

主務課員

連帯 局長 課長

決行後回覧(決裁) 局長 課長

陸軍省 10.10.14 189 補任課

陸軍省 10.10.10 第88號 動員課

陸軍省 10.14

陸軍省 10.10.9 55

永久甲

副官ヨリ陸軍一般ヘ通牒案（陸普）

（別紙ノ通）

陸普第五九五四號　昭和十年十月十八日

甲1350

4　寫眞撮影ニ關スル事項

5　一般ノ取締、車馬ノ整理、憲兵及警察官ニ關スル事項

消防ニ關スル事項

8 臨時構築物（擁壁機ヲ含ム）ニ關スル事項

歩兵隊ニ於ケル上等兵、各部隊ニ於ケル衛生部兵卒ノ人員、進級及勤務ニ關スル件中一部改正ノ件

副官ヨリ陸軍一般ヘ通牒案（陸普）

昭和四年陸普第三一六六號歩兵隊ニ於ケル上等兵、各部隊ニ於ケル衛生部兵卒ノ人員、進級及勤務ニ關スル件中第一號第一項「近衛師團歩兵聯隊」ヲ削除セラレタルニ付通牒ス

理由

近衛師團歩兵聯隊ハ二期入營制廢止ニ伴ヒ昭和十年十二月ヨリ一期入營兵ノミトナルヲ以テ二期入營

制ニ関スル條項ハ必要ナキニ依ル

9 諸物品ノ購買ノ借入及人夫ノ供給等ニ関スル事項

第三五号

保存期限

決裁指定

決行指定

受領番号

件名

陸軍常備團隊配備表ノ諸隊衛戍地名ト其ノ所在地名ト異ルモノ表示ノ件中改正ノ件

二八五号

起元廳（課）名 軍事課

政務次官 参與官 回付

決裁 前 後 連帯課名 兵、建、書記官

大臣 委

番號	受領	提出	受領	結了
軍事ケ第参三號	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年十月三十日

主務局課 / 大臣官房

連帯 局長 課長

決行後回覧（決裁）局長 課長

政務次官 / 次官 / 主務局長

參與官 / 高級副官 / 主務課長

書記官 / 主務副官 官房御用掛主計 / 主務課員

審案筆記者

永久甲

官二〇閣議決定 関東局官制 関東州警察官 南満洲鉄道附属地警察官 一部改正 定員

合議 外務省警察

昭和十六年八月八日 昭和十六年八月八日 官房 一〇 廿〇 外務省警察

第 三 五 號

保存期限

決裁指定

決行指定

主務局課			大臣官房	
番號	受領	提出	受領	結了
軍事カ第三三號	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 十月 三十日

連帶 局長 課長

決行(決裁)後 回覽 局長 課長

大臣 委

政務次官

次官

主務局長

參與官

高級副官

主務課長

書記官

主務副官

官房御用掛 主計

主務課員

審案 筆記者

受領番號 軍務 第 二八五 號

政務次官 參與官 回付

決裁前 後 連帶課名 兵、建

件名

陸軍常備團隊配備表ノ諸隊衛戍地名ト其ノ所在地名ト異ルモノ表示ノ件中改正ノ件

起元廳(課)名 軍事課

決行(決裁)後 回覽課名

成規 登錄 9

永久甲

陸軍省 10.10.18 建築課

陸軍省 10.10.9 受175號 經理局

官二、關東州廳警察官五、關東廳警察官一、南滿洲鐵道株式會社社員二二

合計セラレタル人員ハ今回ノ事變關係者陸軍十六三、海軍二〇、外務省警察

社宮司ニ通達ス

合祀セラレタル人員ハ今回ノ事變關係者陸軍七六三、海軍二〇、外務省警察官二、朝鮮總督府警察官五、關東廳警察官一、南滿洲鐵道株式會社社員二二

（別紙）陸達案

陸達第三十三號

十月廿四日

官報照合

祀通知並ニ參拜案内狀ハ三月三十日迄ニ發送セリ（維新殉難者一名ハ四月六
日合祀[illegible]出サレ即日發送ス）

陸軍

陸達第三十三號

昭和三年陸達第四十七號中左ノ通改正ス

昭和十年十月二十六日　陸軍大臣

騎砲兵四大隊 野戰重砲兵第三旅團司令部 野戰重砲兵第一聯隊 野戰重砲兵第七聯隊	國府台	千葉縣東葛飾郡市川町	ヲ
騎砲兵大隊 野戰重砲兵第三旅團司令部 野戰重砲兵第一聯隊 野戰重砲兵第七聯隊 高射砲第二聯隊	國府台	千葉縣市川市	ニ、

部隊	所在地	住所	
歩兵第六十八聯隊	岐阜	岐阜縣稻葉郡北長森村大字野一色	ヲ
飛行第一聯隊	岐阜	岐阜縣稻葉郡那加村大字影野新田	ヲ
飛行第二聯隊	岐阜	岐阜縣稻葉郡鵜沼村大字各務原	ヲ
歩兵第六十八聯隊	岐阜	岐阜縣稻葉郡北長森村大字野一色	ニ、
第一飛行團司令部	岐阜	岐阜縣稻葉郡蘇原村	ニ、
飛行第一聯隊	岐阜	岐阜縣稻葉郡那加村大字影野新田	ニ、
飛行第二聯隊	岐阜	岐阜縣稻葉郡鵜沼村大字各務原	ニ、
騎兵第四聯隊	信太山	大阪府南河內郡金岡村	ヲ
野砲兵第四聯隊	信太山	大阪府泉北郡和泉町	ヲ
野砲兵第四聯隊	信太山	大阪府南河內郡金岡村	ニ、
輜重兵第四大隊	信太山	大阪府南河內郡金岡村	ヲ

(小林又七印行)

「

騎兵第四聯隊 輜重兵第四大隊	大阪	大阪府南河内郡金岡村

」ニ、「

歩兵第四十八聯隊第三大隊	佐賀	佐賀縣佐賀郡高木瀬村大字東高木

」ヲ「

高射砲第四聯隊	佐賀	佐賀縣佐賀郡高木瀬村大字東高木

」ニ

改メ飛行第三聯隊ノ項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

第二飛行團司令部 飛行第九聯隊	會寧	咸鏡北道會寧郡碧城面

附　則

第二飛行團司令部、飛行第九聯隊、高射砲第四聯隊及歩兵第四十八聯隊第三大隊ニ關スル改正規定ハ當該部隊ノ新設又ハ移轉ニ件

ヒ之ヲ施行ス

（小林又七印行）

(イ)今回ハ行幸ナキヲ以テ報道關係者ハ別ニ願書提出ヲ要セス隨意參觀又

四月廿七日　臨時祭中勅使、皇族御參拜、軍隊參拜（約二十社）

(ロ)新聞發表ハ委員ノ提供セル資料ニ依リ陸軍省新聞班ニ於テ行ヒタリ

六 [redacted] 三

保存期限	永久
決裁指定	次官委任
決行指定	

受領番號	陸軍省 受領 二二三三號
件名	士官ノ定員ニ依リ宅直ヲ廢シ將校當直ヲ置クノ件中改正ノ件
起元廳(課)名	兵務課
政務次官 參與官 回付	
決裁 前・後	
連帶課名	軍事、徴募、防備、主計、衛生
決裁後回覽課名	
番案	
筆記者	

大臣	委
政務次官	
次官	古莊
主務局長	今井
參與官	
高級副官	
主務課長	西村
書記官	日高
主務副官	
官房御用掛主計	
主務課員	

主務局課			大臣官房	
番號	受領	提出	受領	結了
陸密甲第七〇號	昭和　年　月　日	昭和　年　月　日	昭和　年十月廿八日	昭和　年十一月五日

連帶	決行後回覽(決裁)
局長	局長
課長	課長

陸軍省 10.10.24 202

陸軍省 10.10. 軍事課

陸軍省 10.10.20 580 防備課

陸軍省 10.10.22 主計課

10.10.25 衛生課

航空本部 早川中佐ニ回答スミ 編制定員ノ意味

陸普

陸軍一般（甲）

明治四十三年陸普第一七七三號中左ノ通改正ス

昭和十年十月　日

陸軍大臣 川島義之

「定員五名以上」ヲ「定員四名以上」ニ、「衛戍病院服務規則第百三十五條」ヲ「衛戍病院服務規則第百三十一條」ニ改ム

陸普第六一八〇號昭和十年十月廿九日

理由

軍隊内務書（第百三）及衛戍病院服務規則ノ改正ニ伴ヒ改正ノ要アルニ因ル

参考

一、士官ノ定員ニ依リ宅直ヲ廢シ將校宿直ヲ置クノ[illegible]

（明治四三、四、二六
陸普一、七七三）

「衛戍病院服務規則第百
自今尉官同相當官ノ定員五名以上三十五條ノ場合ヲ除クヲ有ス
ル司令部、官衙、學校等ニ在リテハ總テ宅直ヲ廢シ將校宿直ヲ
置クヘシ」

二、衛戍病院服務規則第百三十五條（現行第百三十一條）
病院長ハ宿直勤務ニ服スヘキ軍醫二名以下ナルトキハ其ノ宿直
ヲ宅直ト爲スコトヲ得

料ヲ免除セラル）

長野縣南安曇郡梓村大字梓九三〇番地

永久保存

既規類纂登載

保存期限

決裁指定

次官

決行指定

七三

政務次官 參與官 回付

決裁 前 後

連帶課名 銃、器、主、監、衣、法務局

回覽課名 決行（決裁）後

受領番號 九年 陸受第三八〇號

件名 陸軍傭人ノ名稱改正ニ關スル件

起元廳（課）名 軍事課

主務局課 番號	受領	提出	大臣官房 受領	結了
軍事 伍 第二三乏	昭和 年 月 十三日	昭和 年 月 日	昭和 年 九月十九日	昭和 年 十一月三日

大臣

政務次官 / 次官 / 主務局長

參與官 / 高級副官 / 主務課長

書記官 / 主務副官 官房御用掛主計 / 主務課員

連帶 局長 / 課長

決行（決裁）後回覽 局長 / 課長

陸軍省 10.9.14 主計課

陸軍省 10.9.14 148號 銃砲課

陸軍省 10.9.18 受第1816號 法務局

陸軍省 10.9.16 衣糧課

陸軍省 10.9.16 監査課

陸軍省 10.9.14 第74號 器材課

陸達案

雇員傭人給料支給規則、陸軍監獄看守陸軍警査及陸軍傭人被服給與規則、臺灣駐劄陸軍部隊給與令細則、朝鮮、滿洲駐劄陸軍部隊給與令細則中「守警」ヲ「守衛」ニ改ム

陸達第二十八號

年　月　日　陸軍大臣

九月廿三日

官報照合

副官ヨリ陸軍一般ヘ通牒案（陸普）

（別紙）

陸普第五三六三號　昭和十年九月廿三日

陸普第　　號

陸軍傭人ノ名稱改正ニ關スル件陸軍一般ヘ通牒

昭和十年　月　日　陸軍省副官　牛島　満

從前ノ陸普、陸滿普中「守警」トアルハ自今「守衛」ニ相當スル儀ト承知相成度

追ヲ既製ノ書類ニ對スル修正ハ特ニ實施セサルモ差支無キ儀ト承知相成度

陸造甲第五九四號

傭人ノ名稱改正ニ關スル件上申

昭和九年九月廿六日

陸軍造兵廠長官　植村東彦

陸軍大臣　林　銑十郎殿

左記理由ニ依リ傭人ノ名稱中「守警」ヲ「守衛」ト改メラレ度ニ付詮議相成度

理由

「守警」ナル名稱ハ將校相當官ノ主計ト語音相通スルヲ以テ當廠ノ如ク兩者共ニ服務スル場所ニ於テハ日常執務間ニ往々彼是混淆シ爲ニ誤解ヲ生スル虞ナキニシモアラス之ヲ避ケンカ爲ニハ一々補足語ヲ使用スル要アリテ其ノ煩ニ堪ヘス依ツテ「守警」ヲ「守衛」ト改ムル時ハ兩者ノ發音明ニ異リテ此ノ弊ナク執務上多大ノ便益ヲ得ルニ至ルヘキヲ以テナリ

了

陸軍造兵廠長官

衣糧課　課長　佐藤　主計正　吉良　主計正　川島　主計正　下川　主計正　森口　主計

上申ノ通詮議相成度　意見

軍事課御中

陸軍省兵器局銃砲課

陸造甲第五九四號

傭人ノ名稱改正ニ關スル件上申

陸軍造兵廠長官　植村東彦

昭和九年九月廿六日

陸軍大臣　林銑十郎殿

理由

左記理由ニ依リ傭人ノ名稱中「守警」ヲ「守衛」ト改メラレ度ニ付詮議相成度

「守警」ナル名稱ハ將校相當官ノ主計ト語音相通スルヲ以テ當廠ノ如ク兩者共ニ服務スル場所ニ於テハ日常執務間ニ往々彼是混淆シ爲ニ誤解ヲ生スル虞ナキニシモアラス之ヲ避ケンカ爲ニハ一々補足語ヲ使用スル要アリテ其ノ煩ニ堪ヘス依ツテ「守警」ヲ「守衛」ト改ムル時ハ兩者ノ發音明ニ異リテ此ノ弊ナク執務上多大ノ便益ヲ得ルニ至ルヘキヲ以テナリ

上申通詮議相成度意見

陸軍省兵器局銃砲課

軍事課御中

陸造甲第五九四號

傭人ノ名稱改正ニ關スル件上申

陸軍造兵廠長官　植村東彦

昭和九年九月廿六日

陸軍大臣　林銑十郎殿

左記理由ニ依リ傭人ノ名稱中「守警」ヲ「守衛」ト改メラレ度ニ付詮議相成度

理由

「守警」ナル名稱ハ將校相當官ノ主計ト語音相通スルヲ以テ當廠ノ如ク兩者共ニ服務スル場所ニ於テハ日常執務間ニ往々彼是混淆シ爲ニ誤解ヲ生スル虞ナキニシモアラス之ヲ避ケンカ爲ニハ一々補足語ヲ使用スル要アリテ其ノ煩ニ堪ヘス依ツテ「守警」ヲ「守衛」ト改ムル時ハ兩者ノ發音明ニ異リテ此ノ弊ナク執務上多大ノ便益ヲ得ルニ至ルヘキヲ以テナリ

了

三八

陸軍省 9.9.27 237 軍事課

陸軍省 10.5.14 監査課

陸軍省 10.5.15

陸軍造兵廠長官

軍事課御中

上申通詮議相成度　意見

陸軍省兵器局銃砲課

陸造甲第六七九號

陸軍造兵廠處務規程中改正ノ件通牒

昭和十年十一月六日

陸軍造兵廠

陸軍大臣官房御中

首題規程中左記ノ通改正セシニ付承知相成度

左記

一、「守督」ヲ「守衛」ニ改ム（九月二十三日ヨリ實施）

二、附錄警戒取締規定第十條第二項中「士官五名未滿」ヲ「士官四名未滿」ニ改ム
（三十日ヨリ實施）

陸軍省 10.11.7 大臣官房

衣糧課

陸軍省 10.11.22

陸軍 10.11.22 第74 器材課

陸軍省 10.11.28 受第2332號 法務局

陸軍省 10.11.2? 衣糧課

陸造甲第六七九號

陸軍造兵廠處務規程中改正ノ件通牒

昭和十年十一月六日

陸軍造兵廠

陸軍大臣官房御中

首題規程中左記ノ通改正セシニ付承知相成度

左記

一、「守警」ヲ「守衛」ニ改ム（九月二十三日ヨリ實施）

二、附錄警戒取締規定第十條第二項中「士官五名未滿」ヲ「士官四名未滿」ニ改ム（三十日ヨリ實施）

課	區	血
主計正 吉野		
主計正 永井		
主計正 矢野		
主計正 澤本		
主計正 中村		
主計 岩倉		

陸軍省 10.11.22 午後
陸軍 10.11.22 第74 器材課
陸軍省 10.11.28 受第2332號 法務局
陸軍省 10.11.2 時 衣糧課

陸造甲第六七九號

陸軍造兵廠處務規程中改正ノ件通[illegible]

昭和十年十一月六日

陸軍造兵廠

陸軍大臣官房御中

首題規程中左記ノ通改正セシニ付承知相成度

左記

一、「守督」ヲ「守衛」ニ改ム（九月二十三日ヨリ實施）

二、附錄警戒取締規定第十條第二項中「士官五名未滿」ヲ「士官四名未滿」ニ改ム

三十日ヨリ實施）

陸軍省 10.11.26 監査課
陸軍省 10.11.7 237 軍事課
陸軍 10.11.22 第14 器材課
陸軍省 10.11.22
陸軍省 10.11.28 受第2332號 法務局
陸軍省 10.11.27 衣糧課
陸軍省 10.11.8 銃砲課

七、經費決算

受ノ部

三八

保存期限 | 決裁指定 | 決行指定 牛島

陸規類聚登載 2

受領番號 二五六八

件名 衛戍病院看護兵及磨工兵派遣規則中改正ノ件

起元廳(課)名 軍事課

永久

政務次官 參與官 回付 決裁前 決裁後

連帶課名 衛生 醫事 經理 人事 兵務

決行(決裁)後回覧課名

主務局課			大臣官房	
番號	受領	提出	受領	結了
陸普第七一九五號	昭和 年 月 日	昭和拾年十二月七日	昭和 年 月 日	昭和 年 十二月十七日

連帶		決行(決裁)後回覧	
局長	課長	局長	課長
村上	村上 代		

大臣

政務次官　參與官

次官

高級副官 牛島

主務局長

主務課長

主務副官　主官房計 御用掛

主務課員

書記官

審案筆記者

陸軍省 10.12.5 68

陸軍省 10.12.4 444 軍事課

陸軍省 10.12.4 2713 兵務課

陸達

衛戍病院看護兵及磨工兵派遣規則中左ノ通
改正ス

陸達第四十號

昭和十年十二月　日

陸軍大臣　川島義之

第二條中「陸軍士官學校、陸軍幼年學校及陸軍教導學校」ヲ「熊谷陸軍飛行學校、陸軍航空技術學校、陸軍士官學校、陸軍幼年學校及陸軍教導學校」ニ改ム

第七條中「軍醫又ハ藥劑官」ヲ「軍醫正、軍醫、藥劑正又ハ藥劑官」ニ改ム

附表中

「立川

所澤陸軍飛行學校	二	二

」ヲ

「所澤

熊谷陸軍飛行學校	一	一
陸軍航空技術學校	二	一

」ニ改ム

昭和八年陸達第六號附則第一項ヲ削ル

附則

本達ハ昭和十一年一月十日ヨリ之ヲ施行ス

理由

昭和十年軍令陸乙第二號ニ依リ陸軍平時編制中改正セラレタル為必要アルニ由ル

八、奉納金品

奉納供物ハ各宮殿下ノ白羽二重ヲ始メ岡田首相、各省大臣、牧野内大臣、貴

参照

衛戍病院看護兵及磨工兵派遣規則中改正

（改正スヘキ箇所ノミヲ記載ス）
（黒書ハ現制朱書ハ改正ヲ要スル點ヲ示ス）

第二條　看護兵及磨工兵ノ派遣期間ハ概ネ六箇月トシ勤務又ハ教育上必要アルトキハ該期間ニ拘ラス交代セシムルコトヲ得但シ熊谷陸軍飛行學校、陸軍航空技術學校、陸軍士官學校、陸軍幼年學校及陸軍教導學校ニ派遣スヘキ看護兵ハ其ノ派遣期間ヲ六箇月以内ニ短縮スルコトヲ得ス

第七條　看護兵及磨工兵派遣中ニ於ケル勤務ノ監督及教育ハ當該部隊長部下ノ軍醫正、軍醫、藥劑正、又ハ藥劑官ヲシテ擔任セシムルモノトス

附表　看護兵磨工兵派遣區分表中

派遣病院名	派遣ヲ受クル部隊	上等看護兵	一、二等看護兵	磨工兵
所澤	熊谷陸軍飛行學校	一	一	
	陸軍航空技術學校	二	一 廿	
立川	所澤陸軍飛行學校	二	二	

昭和八年陸達第六號附則第一項

所澤陸軍飛行學校ニ係ル派遣ハ昭和八年八月ヨリ之ヲ實施ス但シ此ノ場合ニ於テハ上等看護兵一名及ビ一、二等看護兵一名ヲ派遣シ昭和九年八月ニ於テ上等看護兵一名ヲ、更ニ昭和十年八月ニ於テ一、二等看護兵一名ヲ增加派遣ス

族院議長、衆議院議長、宇垣朝鮮總督、中川臺灣總督、參謀總長、教育總監

奉納供物ハ各宮殿下ノ白酒二重ヲ始メ岡田首相、各省大臣、牧野内大臣、貴

ハ奉幣金品

甲輯第一類目次

編制

編次番號	件名	形式	主務	年	受	番號	
一	陸軍常備團隊配備表改正ノ件	軍令	軍事	一〇	貳	一〇八八	合
二	陸軍平時傭人ノ定員並嘱託、雇員及傭人ノ雇傭ニ関スル件中改正ノ件	達	仝	仝	貳	一〇〇六	合
三	昭和八乃至九年徴集後期兵ヨリ採用セル下士官候補者ノ定員上ノ取扱ニ関スル件	仝	仝	仝	貳	一九八〇	合
四	昭和九年徴集兵ヨリ採用セル幹部候補生ノ定員上ノ取扱ニ関スル件	仝	仝	仝	貳	一九九二	合

二

保存期限

決裁指定

決行指定 牛島

受領番號 陸軍省受領 第一〇八八號

件名 陸軍常備團隊配備表改正ノ件

起元廳(課)名 軍事課

政務次官 參與官 回付

決裁 前 後 連帶課名 兵 徵

決行(決裁)後回覽課名

永久

大臣 (花押)

主務局課 番號	主務局課 受領	主務局課 提出	大臣官房 受領	大臣官房 結了
軍事乙第一三三號	昭和 年 月 日	昭和十年五月廿八日	昭和 年 五月廿八日	昭和 年 八月九日

次官 (印)

政務次官

主務局長 橋本

高級副官 上島

參與官

主務課長 橋本

主務副官 官房御用掛 主計 (印)

書記官 日高

主務課員 (印)

審案 筆記者 中澤

連帶: 局長 / 課長

決行(決裁)後回覽: 局長 / 課長

陸軍省 10.5.28 第21號

陸軍省 10.5.27 第29號

參謀總長ヘ照會案（陸普）

首題ノ件別紙軍令案ノ通改正致度異存無クハ御允裁理由書ヲ添ヘ照會ス

陸普第三〇一二號　昭和十年五月廿八日

（別紙）

右異存ナキ旨回答アリタル後

陸軍常備團隊配備表改定並施行ノ件

上奏案

陸軍常備團隊配備表別紙軍令案ノ通改定相成之カ施行ヲ命セラレ度理由書ヲ具ヘ謹テ上奏ス

（別紙）

上奏 七月二十三日

一、招魂式

一　招魂式ハ四月廿六日午後八時ヨリ十時十分ニ亙リ最モ莊嚴ニ行ハレタリ

内閣總理大臣ヘ報告案

陸軍常備團隊配備表別紙ノ通改定

セラレタルニ付報告ス

一

陸普第四四〇四號　昭和十年八月五日

一

軍令案

朕陸軍常備團隊配備表ヲ改定シ之ガ施行ヲ命ズ

御名御璽

昭和十年　月　日

陸軍大臣　林銑十郎

軍令陸第十五號

官報照合

七月十五日

軍令陸第十五號

陸軍常備團隊配備表左ノ通改正ス

（別紙、陸軍常備團隊配備表）

附則

本令中歩兵第四十八聯隊ニ関スル改正規定ハ同聯隊第三大隊ノ移轉ニ伴ヒ、山砲兵第二十五聯隊ニ関スル改正規定ハ野砲兵第二十五聯隊ノ改編ニ伴ヒ、高射砲第二、第三、第四聯隊及同第五、第六大隊、第一、第二飛行團司令部竝ニ飛行第九聯隊ニ関スル改正規定ハ當該部隊ノ新設又ハ分離ニ伴ヒ之ヲ施行ス

理由書

平時編制改定ノ結果常備團隊配備ヲ變更スル等ノ要アルニ由ル

陸軍常備團隊配備表

軍	軍司令部所在地	師團	師團司令部所在地	歩兵旅團	歩兵旅團司令部所在地	歩兵聯隊	戰車聯隊	騎兵旅團	騎兵旅團司令部所在地	騎兵聯隊	野砲兵聯隊	山砲兵聯隊	獨立山砲兵聯隊	騎砲兵大隊（騎砲兵聯隊）	野戰重砲兵旅團	野戰重砲兵旅團司令部所在地	野戰重砲兵聯隊	重砲兵聯隊	重砲兵大隊	高射砲聯隊	高射砲大隊	工兵大隊	鐵道聯隊	電信聯隊	飛行團司令部	飛行團司令部所在地	飛行聯隊	氣球隊	輜重兵大隊	諸隊衛戍地名
		近衛	東京	近衛第一	東京	近衛第一					近衛											近衛		第一					近衛	東京
						近衛第二																								東京
				近衛第二	東京	近衛第三																								東京
						近衛第四																								東京
								第一	習志野	近衛																				東京
										第十三、第十四																				習志野
															第四	東京	第四													下志津
																	第八													東京
																				第二										國府臺
																							第一					一隊		千葉
																							第二							習志野
																											第五			立川
		第一	東京	第一	東京	第一					第一											第一							第一	東京
						第四十九																								甲府
				第二	東京	第三																								東京
						第五十七																								佐倉
							第二																							[illegible]
								第二	習志野	第一																				東京
										第十五、第十六				（一隊）、一隊																習志野
															第三	國府臺	第一、第七													國府臺
																		横須賀												横須賀
		第二	仙臺	第三	仙臺	第四				第二	第二											第二							第二	仙臺
						第二十九																								若松
				第十五	高田	第十六（聯隊本部、第一大隊、第二大隊）																								新發田
						第十六（第三大隊）																								村松
						第三十							第一																	高田
		第三	名古屋	第五	名古屋	第六					第三																		第三	名古屋
						第六十八																								岐阜
				第二十九	靜岡	第十八																第三								豐橋
						第三十四																								靜岡
								第四	豐橋	第三																				名古屋
										第二十五、第二十六																				豐橋
															第一	三島	第二、第三													三島
																				第一										濱松
																									第一	岐阜	第一、第二			岐阜
																											第七			濱松
		第四	大阪	第七	大阪	第八				第四																			第四	大阪
						第七十																								篠山
				第三十二	和歌山	第三十七																								大阪
						第六十一																								和歌山
											第四																			信太山
																		深山												深山
																						第四								高槻
		第五	廣島	第九	廣島	第十一				第五	第五											第五		第二					第五	廣島
						第四十一																								福山
				第二十一	山口	第二十一																								濱田
						第四十二																								山口
		第六	熊本	第十一	熊本	第十三				第六	第六											第六							第六	熊本
						第四十七																								大分
				第三十六	鹿兒島	第二十三																								都城
						第四十五																								鹿兒島
		第七	旭川	第十三	旭川	第二十五																								札幌
				第十四	旭川	第二十六、第二十七、第二十八				第七	第七											第七							第七	旭川
																			函館											函館
		第八	弘前	第四	弘前	第五																								青森
						第三十一					第八																		第八	弘前
				第十六	秋田	第十七																								秋田
						第三十二																								山形
								第三	盛岡	第八																				弘前
										第二十三、第二十四												第八								盛岡
		第九	金澤	第六	金澤	第七				第九	第九											第九							第九	金澤
						第三十五																								富山
				第十八	敦賀	第十九																								敦賀
						第三十六																								鯖江
		第十	姫路	第八	姫路	第三十九				第十	第十																		第十	姫路
						第四十																								鳥取
				第三十三	岡山	第十																第十								岡山
						第六十三																								松江
		第十一	善通寺	第十	善通寺	第十二				第十一	第十一											第十一							第十一	善通寺
						第二十二																								松山
				第二十二	德島	第四十三																								德島
						第四十四																								高知
						第十四																								小倉

師團	所在地	旅團	聯隊	其他	衛戍地
第三師團	名古屋		第三十四		靜岡
				第三	名古屋
				第四豐橋 第二十五 第二十六	豐橋
				第一三島 第二 第三	三島
				第一	濱松
				第一岐阜 第一 第二	岐阜
				第七	濱松
第四師團	大阪	第七大阪	第八	第四 第四	大阪
			第七十		篠山
		第三十二和歌山	第三十七		大阪
			第六十一		和歌山
				第四	信太山
				深山	深山
				第四	高槻
第五師團	廣島	第九廣島	第十一	第五 第五 第五 第二 第五	廣島
			第四十一		福山
		第二十一山口	第二十一		濱田
			第四十二		山口
第六師團	熊本	第十一熊本	第十三	第六 第六 第六 第六	熊本
			第四十七		大分
		第三十六鹿兒島	第二十三		都城
			第四十五		鹿兒島
第七師團	旭川	第十三旭川	第二十五		札幌
			第二十六	第七 第七 第七 第七	旭川
		第十四旭川	第二十七		旭川
			第二十八		旭川
				函館	函館
第八師團	弘前	第四弘前	第五		青森
			第三十一	第八 第八	弘前
		第十六秋田	第十七		秋田
			第三十二		山形
				第三盛岡 第八	弘前
				第二十三 第二十四 第八	盛岡
第九師團	金澤	第六金澤	第七	第九 第九 第九 第九	金澤
			第三十五		富山
		第十八敦賀	第十九		敦賀
			第三十六		鯖江
第十師團	姫路	第八姫路	第三十九	第十 第十 第十	姫路
			第四十		鳥取
		第三十三岡山	第十	第十	岡山
			第六十三		松江
第十一師團	善通寺	第十善通寺	第十二	第十一 第十一 第十一 第十一	善通寺
			第二十二		松山
		第二十二德島	第四十三		德島
			第四十四		高知
第十二師團	久留米	第十二福岡	第十四		小倉
			第二十四		福岡
		第二十四久留米	第四十六		大村
			第四十八	第十二 第二十四 第三 第十八 第十八	久留米
				第二小倉 第五 第六	小倉
				下關	下關
				佐世保	佐世保
				鷄知	鷄知
				第四	佐賀
				第四	太刀洗
第十四師團	宇都宮	第二十七宇都宮	第二		水戸
			第五十九	第十八 第二十 第十四 第十四	宇都宮
		第二十八高崎	第十五		高崎
			第五十		松本
第十六師團	京都	第十九京都	第九	第二十 第二十二 第十六 第十六	京都
			第二十		福知山
		第三十津	第三十三		津
			第三十八		奈良
				舞鶴	舞鶴
				第三	大津
				第三	八日市
朝鮮軍 龍山 第十九師團	羅南	第三十七咸興	第七十三	第二十七 第二十五	羅南
			第七十四		咸興
		第三十八羅南	第七十五	第十九	會寧
			第七十六		羅南
				第五	羅津
第二十師團	龍山	第三十九平壤	第七十七	第六	平壤
			第七十八	第二十八 第二十六 第二十	龍山
		第四十龍山	第七十九		龍山
			第八十聯隊本部 第一大隊 第二大隊		大邱
			第八十聯隊第三大隊		大田
				馬山	馬山
				第二會寧 第六	平壤
				第九	會寧

備考

一　近衛野砲兵聯隊ハ野戰重砲兵第四旅團ニ、野砲兵第一聯隊及騎砲兵大隊ハ野戰重砲兵第三旅團ニ、野砲兵第三聯隊ハ野戰重砲兵第一旅團ニ、野砲兵第二十四聯隊及獨立山砲兵第三聯隊ハ野戰重砲兵第二旅團ニ、騎砲兵隊ハ騎兵第二旅團ニ屬スルモノトス

二　第二飛行團司令部新設時期迄飛行第九聯隊ハ第十九師團長ニ、飛行第六聯隊ハ第二十師團長ニ隷ス

三　臺灣、關東州及滿洲國ニ在ル常備團隊ハ本表外トス

四　第十九師團及第二十師團ハ當分ノ內規定ノ衛戍地外ニ分屯セシムルコトヲ得

五　兵營移轉ヲ完了セサル部隊ハ本表規定ノ衛戍地外ニ在ラシムルコトヲ得

参謀本部

参密第二〇三號第二

陸軍常備團隊配備表改正ノ件回答

昭和十年五月三十日　参謀總長　載仁親王

陸軍大臣　林銑十郎殿

五月二十八日附陸普第三〇一二號ヲ以テ照會ニ係ル首題ノ件異存ナシ

陸軍省 10.5.31 166 軍事課

陸軍

陸海軍軍用糧食、菓子、愛國恤兵會記念品、繪葉書等ハ左ノ通風呂敷ニテ包装シ各戸ニ一箇宛交付スルノ準備ヲ為ス

保存期限	永久甲
決裁指定	次官
決行指定	
受領番號	陸軍省 受領 貳第一〇〇六號
政務次官 參與官 回付	
決裁 前 後	
連帯課名	兵、馬、主、衣、建
件名	陸軍平時傭人ノ定員並嘱託、雇員及傭人ノ雇傭ニ關スル件中改正ノ件
大臣	委

成規類聚登載 2

主務局課 番號	受領	提出	大臣官房 受領	結了
軍事課第四三一號	昭和 年 月 日	昭和十年五月十六日	昭和 年五月十六日	昭和 年十月一日

政務次官 / 次官 / 主務局長 / 參與官 / 高級副官 / 主務課長 / 書記官 / 主務副官 / 官房御用掛 主計 / 主務課員

連帯：局長 / 課長 ― 決後回行（決裁）覧：局長 / 課長

衣糧課：佐藤 主計正、吉良 主計、川島 主計、小川 主計正、森口 主計

陸軍省 10.5.13 主計課 ― 10.5.14 衣糧課 ― 陸軍省 10.5.13 兵務課 ― 10.5.13 馬政課

陸軍一般ヘ達案（陸普）

大正十四年陸普第二〇三〇號陸軍平時傭人ノ定員並囑託、雇員及傭人ノ雇傭ニ関スル件中左ノ通改正ス

昭和十年五月　日

陸軍大臣　林銑十郎

陸普第二八三〇號　昭和十年五月十八日甲

陸軍平時傭人定員表中陸軍工兵學校ノ次ニ左ノ一行ヲ加フ

陸軍習志野學校		二	二

又同表陸軍士官學校ノ次ニ左ノ三行ヲ加フ

仙臺陸軍教導學校		一	一

豊橋陸軍教導學校	二一	一一			三二
熊本陸軍教導學校		一			一

附則

本達ハ昭和十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

一、遺族接待ノ業務ハ豫メ細部ノ實施要領ヲ定メ實施セリ

二、受付及記念品等ノ交付

保存期限	
決裁指定	
決行指定	

受領番號	貳受第一〇〇六號
件名	陸軍平時傭人ノ定員並嘱託、雇員及傭人ノ雇傭ニ関スル件中改正ノ件
起元廳(課)名	軍事課
政務次官 參與官 回付	決裁 前 後
連帶課名	兵、医(衛)、主(監)、建、衣

主務局課 番號	主務局課 受領	主務局課 提出	大臣官房 受領	大臣官房 結了
軍事課第四三三號	昭和十年九月十二日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日

大臣

政務次官　次官　主務局長

參與官　高級副官　主務課長

書記官　主務副官　官房御用掛主計　主務課員

連帶 局長 課長

決後回覽(決裁)行 局長 課長

衣糧課　佐藤主計正　吉良主計正　川嶋主計正　下川主計正　山口主計正

陸軍省 10.9.18

陸軍省 10.9 衣糧課

陸軍省 10.9 監査課

兵務課

陸軍一般ヘ達案（陸普）

（別紙）

陸普第五三五三號

昭和十年九月廿三日

四月廿五日正午ヨリ受付及記念品等ノ交付ヲ開始セリ受付人員左表ノ如シ

二 受付及記念品等ノ交付

一 [illegible]

陸普第　　號　（甲）

陸軍平時傭人ノ定員竝囑託、雇員及傭人ノ雇傭ニ關スル件中改正ノ件達

陸軍一般

大正十四年陸普第二〇三〇號陸軍平時傭人ノ定員竝囑託、雇員及傭人ノ雇傭ニ關スル件中左ノ通改正ス

昭和十年　月　日　陸軍大臣　川島義之

陸軍平時定員表衛戍病院ノ部内地三等ノ項中「甲府」ヲ「所澤、甲府」ニ改メ臺灣ノ項中臺

南ノ行ノ次ニ左ノ一行ヲ加フ

屏東衛戍病院			三	一

附　則

本達ハ所澤衛戍病院ニ在リテハ昭和十一年一月一日屏東衛戍病院ニ在リテハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

理　由

所澤及屏東衛戍病院ノ新設ニ伴ヒ傭人ノ定員ヲ規定スルノ要アルニ由ル

午後十二時二十分終了ス拜觀後ハ逐次ニ自動車ニ依リ明治神宮外苑水泳場

六、新宿御苑拝観（同上）

天皇ノ建安府ニ關スル御製ヲ拜受シ一同深ク皇室ノ殊遇ニ感激ス

[redacted]

保存期限	決裁指定	大臣	決行指定
			牛島

受領番號 陸軍省受領 弐第一九八〇號

政務次官 參與官 回付

決裁 前 後 連帯課名 兵、徴、動、銃、器、主、衣 参謀本部

件名 昭和八乃至九年徴集後期兵ヨリ採用セル下士官候補者ノ定員上ノ取扱ニ關スル件

起元廳（課）名 軍事課 永谷

主務局課 番號 軍事課第三二一號

受領 昭和九年九月廿日

提出 昭和 年 月 日

大臣官房 受領 昭和九年九月二十日

結了 昭和十年十月七日

大臣 㐫

政務次官

次官 古荘

主務局長 今井

參與官

高級副官

主務課長 橋本

書記官

主務副官

官房御用掛主計

主務課員 牧

決行後（決裁）回覧

連帯 局長 課長

局長

課長

村上 秋山 前田

陸軍省 10.9.27

陸軍省 10.9.25 動員課

陸軍

陸普第五五四五號　昭和十年十月二日

遺族（遙安所拜觀者ヲ除ク）ハ午前十時三十分迄ニ外苑木柵特設觀覽席ニ集

六、新宿御苑拜觀（同）

天皇ノ遙安所ニ關スル勅語ヲ拜受シ一同深ク皇室ノ宗道ニ感激ス

陸普第　　　號

昭和八乃至九年徴集後期兵ヨリ採用セル下士官候補者ノ定員上ノ取扱ニ関スル件達

陸軍一般

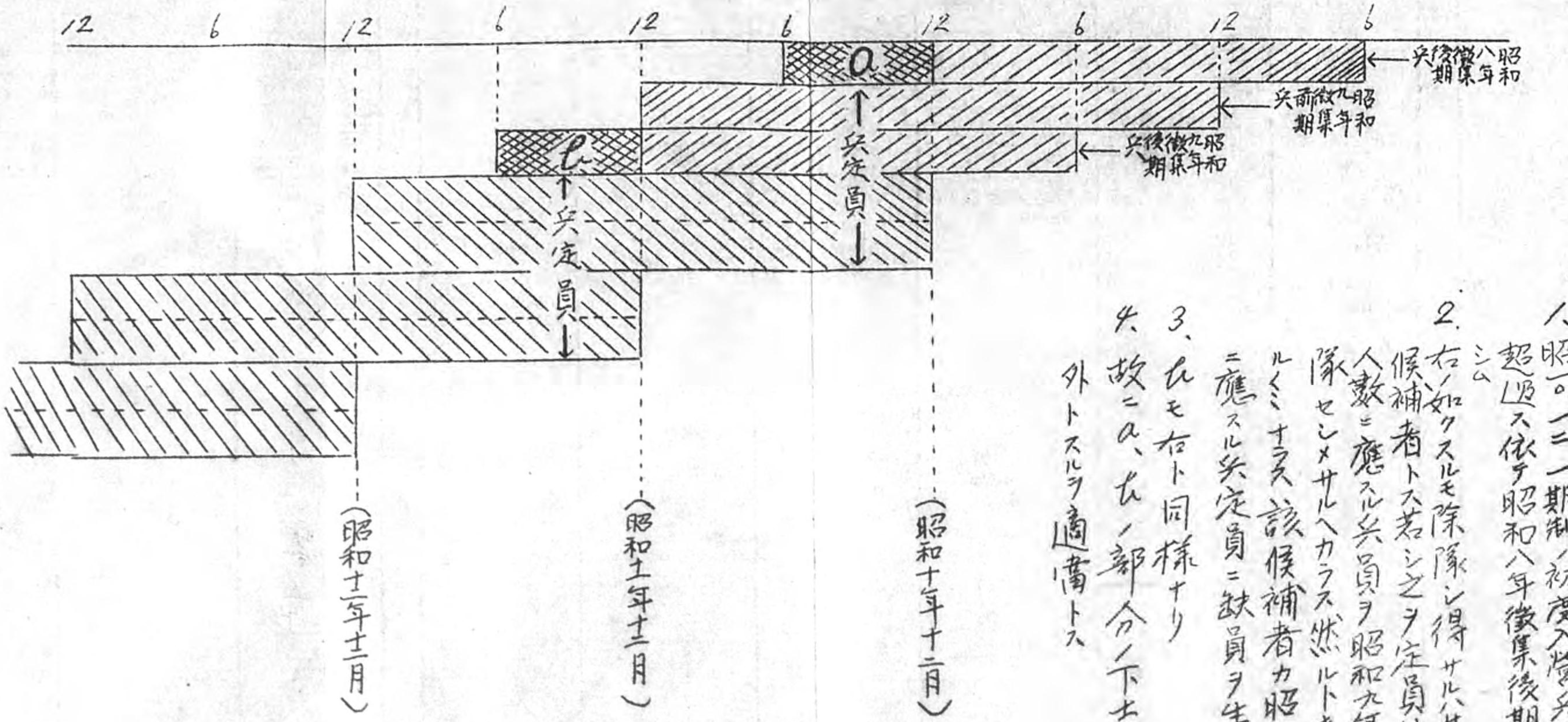
昭和八乃至九年徴集後期兵ヨリ採用セル各兵科部下士官候補者及憲兵上等兵候補者ノ定員上ノ取扱ニ関シ左ノ通定ム

昭和十年九月　　日

陸軍大臣　川島義之

昭和八乃至九年徴集後期兵ヨリ採用セル各兵科部

下士官候補者及憲兵上等兵候補者ハ昭和八年徴集兵ニ在リテハ昭和十年徴集兵ハ又昭和九年徴集兵ニ在リテハ昭和十一年徴集兵ハ當該所屬部隊入營期日ヨリ該候補者任官又ハ命課迄ノ間各所屬部隊ノ定員外トス



説明

1、昭一〇、一二一期制ノ初度入営兵入隊ニ伴ヒaノ部ハ兵定員ヲ超過ス依テ昭和八年徴集後期兵ハ全部一年半在営ニテ除隊セシム

2、右ノ如クスルモ除隊シ得サルハ其中(a)ヨリ採用スル下士官候補者トス若シ之ヲ定員外トスルコトナケレハ該候補者ノ人数ニ應スル兵員ヲ昭和九年徴集前期兵ヨリ皈休除隊セシメサルヘカラス然ルトキハ皈休兵ノ数多キニ失スルノミナラス該候補者カ昭一〇、六ニ入営スルマテ其数ニ應スル兵定員ニ缺員ヲ生スル結果トナル

3、bモaト同様ナリ

4、故ニa、bノ部分ノ下士官候補者ハ任官迄定員外トスルヲ適當トス

[redacted]

保存期限 永久 甲

決裁指定 大臣

決行指定 牛島

受領番號 陸軍省受領 第一九九二號

件名 昭和九年徴集兵ヨリ採用セル幹部候補生ノ定員上ノ取扱ニ關スル件

起元廳(課)名 軍事課

政務次官 參與官 回付

決裁前後 連帯課名 參謀本部 済 兵、徴、動、医、銃、主、監、衣、建

決行(決裁)後 回覧課名

主務局課			大臣官房	
番號	受領	提出	受領	結了
軍事カ第三三二號	昭和 年 十月一日	昭和 年 十月廿日	昭和 年 十月一日	昭和 年 十月七日

大臣

政務次官

次官

主務局長

參與官

高級副官

主務課長

書記官

主務副官 官房御用掛主計

主務課員

連帯 局長 課長

決行(決裁)後回覧 局長 課長

陸軍省 10.9.25 第乙63號 銃砲課

陸軍省 10.9.25 動員課

陸軍省 10.9.28 糧秣課

陸軍省 10.9.28 監査課

陸軍 10.9.30 主計課

10.9.30

陸軍一般ヘ達案（陸普）

（別紙）

陸普第五五八八號　昭和十年十月二日

陸普第　号

軍事課 昭一〇、九、一七

昭和九年徴集兵ヨリ採用セル幹部候補生ノ定員上ノ取扱ニ関スル件達

達案

陸軍一般

昭和九年徴集兵ヨリ採用セル幹部候補生ノ定員上ノ取扱ニ関シ左ノ通定ム

昭和十年　月　日

陸軍大臣　川島義之

一　昭和九年徴集兵ヨリ採用セル幹部候補生ニシテ其ノ修業期間ノ関係上昭和十年徴集兵ノ入営期日以後ニ於テ尚在営ヲ要スル者ハ其ノ間各所

7

属部隊ノ定員外トス

説　明

一般兵在営十日短縮ノ廢止、軍備改變、滿洲派遣部隊ノ編成其ノ他ニ關聯シ入營期日ヲ昨年ノ夫ヨリ早メタル部隊ニ於テハ昭和九年徴集兵ヨリ採用セル幹部候補生ノ退營期日以前ニ本年徴集兵入營スルコトトナル

此ノ際該幹部候補生ヲ依然兵定員中ニ置クトキハ二年歸休人員ヲ著シク増加シ而モ暫クニシテ該幹部候補生ノ退營ト同時ニ多數ノ缺員ヲ生スルニ

至リ適當ナラス
又該幹部候補生ヲ本年徴集兵ノ入營前日ニ退營セシムルコトハ幹部候補生ノ修業期間ヲ短縮スルモノニシテ其ノ能力ヲ底下シ適當ナラス
故ニ該幹部候補生ノ修業期間満ツル迄之ヲ各所屬部隊ノ定員外トスルノ要アリ之ニ要スル経費ハ繰合セニヨル
本定員外ヲ置ク件ハ新ニ軍令ヲ仰カス平時編制第十六條、昭和十年軍備改編要領第七條及昭和七年軍令第二十四號ニヨリ本案ノ如ク處理セ

陸甲

ニ

ントスルモノナリ

能樂協會ノ五流ハ梅若、淺見ニ依リ四月廿七日ヨリ五月一日ニ亙ル五日間正

甲輯第一類目次

儀式禮式

一　陸軍軍屬ノ敬禮方ノ件　指令軍事一八貳　五七

合

日東、ポリドール、コロンビヤ、ビクター各蓄音器會社、放送局及新橋藝妓屋組合、柳橋藝妓屋組合、松竹奉納ノ各種演藝ヲ五日間ニ亙リ午後六時半ヨ

保存期限	永久
決裁指定	
決行指定	牛島

政務次官
參與官 回付
決裁 前 後
連帶課名

受領番號	貳第五七號
件名	陸軍軍屬ノ敬禮方ノ件
起元廳(課)名	憲兵司令部

決行(決裁)後回覽課名

永久甲

大臣

主務局課			大臣官房	
番號	受領	提出	受領	結了
軍事八第二號	昭和 年 月 日	昭和十年一月十八日	昭和 年一月十八日	昭和 年一月廿二日

政務次官	次官	主務局長

參與官	高級副官	主務課長
	牛島	

書記官	主務副官 官房御用掛 主計	主務課員

審案筆記者

連帶	決行(決裁)後回覽
局長	局長
課長	課長

陸軍

指令案

一月十六日附憲庶第一九〇號申請ノ通認可ス

陸普第二一五號　昭和十年一月十九日

陸軍省受領　五七號

憲庶第一九號

傭人ノ敬禮方ニ關スル件上申

昭和十年一月十六日

憲兵司令官　田代皖一郎

陸軍大臣　林銑十郎殿

當所管各部隊左記陸軍軍屬ノ敬禮ハ爾今制服著用ノ場合ハ擧手注目ヲ行フコトニ定メラレ度上申ス

左記

小使、給仕

馬丁

陸軍省 昭和 10.1.17 大臣官房

陸軍省 10.1.17 12 軍事課

陸

軍

甲輯第一類

服制

編次番號	件名	形式	主務	年	受	番號
一	陸軍服制中改正ノ件	勅令	軍事	一八	貳	二五一四

合

保存期限 永久

決裁指定 大臣

決行指定 牛島

受領番號	件名	政務次官 參與官 回付	決裁 前後 連帶課名
軍事二五一四號	陸軍服制中改正ノ件		兵務、徴募、衛生、書記官、衣糧

起元廳（課）名 軍事課

決行（決裁）後回覧課名

大臣官房		主務局課		
結了	受領	提出	受領	番號
昭和 年 十二月廿六日	昭和 年 月三十日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	軍事カ第三九九號

大臣

主務局長 / 次官 / 政務次官

主務課長 / 高級副官 / 參與官

主務課員 / 主務副官 官房御用掛主計 / 書記官

審案筆記者

決行後回覧（決裁） 局長 課長

連帶 局長 課長

戌規類聚登載 ／

廿六日一日二至ル六日間近歩一趾上於大ヲ實施セリ

永久

請議案

陸軍服制中別紙勅令案ノ通改正ノ必要
ヲ認メタルニ付理由書ヲ具シ閣議ヲ請フ
（別紙）

陸普第六九五二號　昭和十年十二月四日

ル者亦多數ニ上リタリ

十、花火

廿六日ヨリ五月一日ニ至ル六日間近歩一堤上（ニ打上）花火ヲ實施セリ

前例ニ依リ興行及露店ノ代表者ヲシテ全般ノ取締ニ任セシメ又憲兵及掛員巡

朕陸軍服制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十年十二月二十日

内閣總理大臣

陸軍大臣

勅令第三百十二號

陸軍服制中左ノ通改正ス